



行動問題の原因のまとめと対応法を考えるシートの記入手順

- ① 記録を基に下段の問題行動に関するA先行事象-B行動-C後続事象を完成させる。
- ② 行動問題の生起に関連するマグマ要因を記入し、行動仮説を立てる。
- ③ 1. 行動問題を起きにくくする環境整備を考える。

問題行動を生じにくくするような環境設定の工夫、適切な行動をとりやすくするために予定、活動の終わりや切り替え、やり方や手順、社会的ルールをわかりやすく視覚的に伝える方法を考える、視覚的な意思表示の手段、視覚的な動機づけ方法の提供など。

- ④ 2. 本人がより適切に要求を満たす自立行動を考える。

対象者自身がその場で望んでいること（良いことを得る、嫌なことを避ける）を実現するためのより適切な行動のことで、行動問題によってもたらされる後続事象と同じになる。適切なコミュニケーション行動であることが多い。発語やコミュニケーションに困難がある子どもには代替コミュニケーションを支援する。

- ⑤ 3. 本人にして欲しい行動や適切な行動を強化する手続きを考える

支援者や保護者が対象者にその場で取ってほしいと望んでいる行動の強化

- ① して欲しい行動を見逃さず褒めたり声をかけたりする
- ② ご褒美となる遊びや活動、トークン、自然な好子の提供など。

- ⑥ 3. 本人にして欲しくないが看過できる行動を消去するの手続きを考える

支援者や保護者が対象者に本来して欲しくないが看過できる程度の行動を消去

- ① 無視（言葉や行動に応答しない。消去バーストに注意）
- ② 誘惑やこだわりになるモノを見えなくするなど

- ⑦ 4. 問題行動自体を弱化する手続きを考える。

弱化①問題行動直後の言葉による叱責や視覚的な禁止やルール

- ②問題行動直後のタイムアウト（一定時間、好子の接触を制限する）
- ③問題行動直後のレスポンスコスト（ある一定量の好子や報酬を取り上げる）
- ④問題行動直後の過剰修正（負荷のかかる活動を科す）

- ⑧ 5. 行動を緩和するためにマグマ要因で改善できることを考える

<注意>倫理的な問題が起こらないように手続きの実施については、同僚や上司と相談して実施してください。承諾書を作成し保護者の承諾を得てください。一定期間実施して、記録を基に効果をもたらさない手続きは、止めたり、変更や修正を加えたり、専門家を交えた支援会議等を開き必ず検討を行ってください。

行動問題の原因のまとめと対応法を考えるシート：記入例

対応1. 問題の起き難い環境整備

- ・視覚的スケジュールで予定の提示
- ・練習内容の手順を絵や写真で提示
- ・時計やタイマーで終わりの時間を提示
- ・使わない時は砂場にカバーをする

3

対応3. 分化強化

して欲しい適切な行動
時間になったら活動を切り替える、教室に戻る、参加する

5

して欲しくないが看過できる行動
大声を出して騒ぐ

6

強化の手続き

- ・次の好きな活動(給食)を写真や実物で提示
- ・できたらご褒美シール
- ・できたらほめる

消去の手続き

無視する

対応2. 本人の問題解決行動

- ・「砂場で遊びたい」要求
- ・「休憩したい」要求
- ・「嫌だ」の拒否要求

4

対応4. 弱化的手続き

ご褒美シールがもらえないことを予告して従わなければシールを渡さない

7

A: 先行事象

運動会の練習で集団活動。
保育士の誘い

B: 問題行動

活動に入らず、誘われたらPPK、噛む。砂遊びを長く続ける。

1

C: 後続事象

- ・活動参加を回避できる (-嫌子)
- ・砂遊びを継続できる (+好子)

行動を悪化させるマグマ要因

こだわり・疾患・気候・社会生活環境の変化・周囲の無理解

- ・運動会の練習期間でストレス多い
- ・集団での活動が苦手
- ・自発的コミュニケーションに乏しい

2

行動仮説: 集団活動(嫌子)の回避が優位で、次に遊び(好子)の持続と切り替えの悪さ

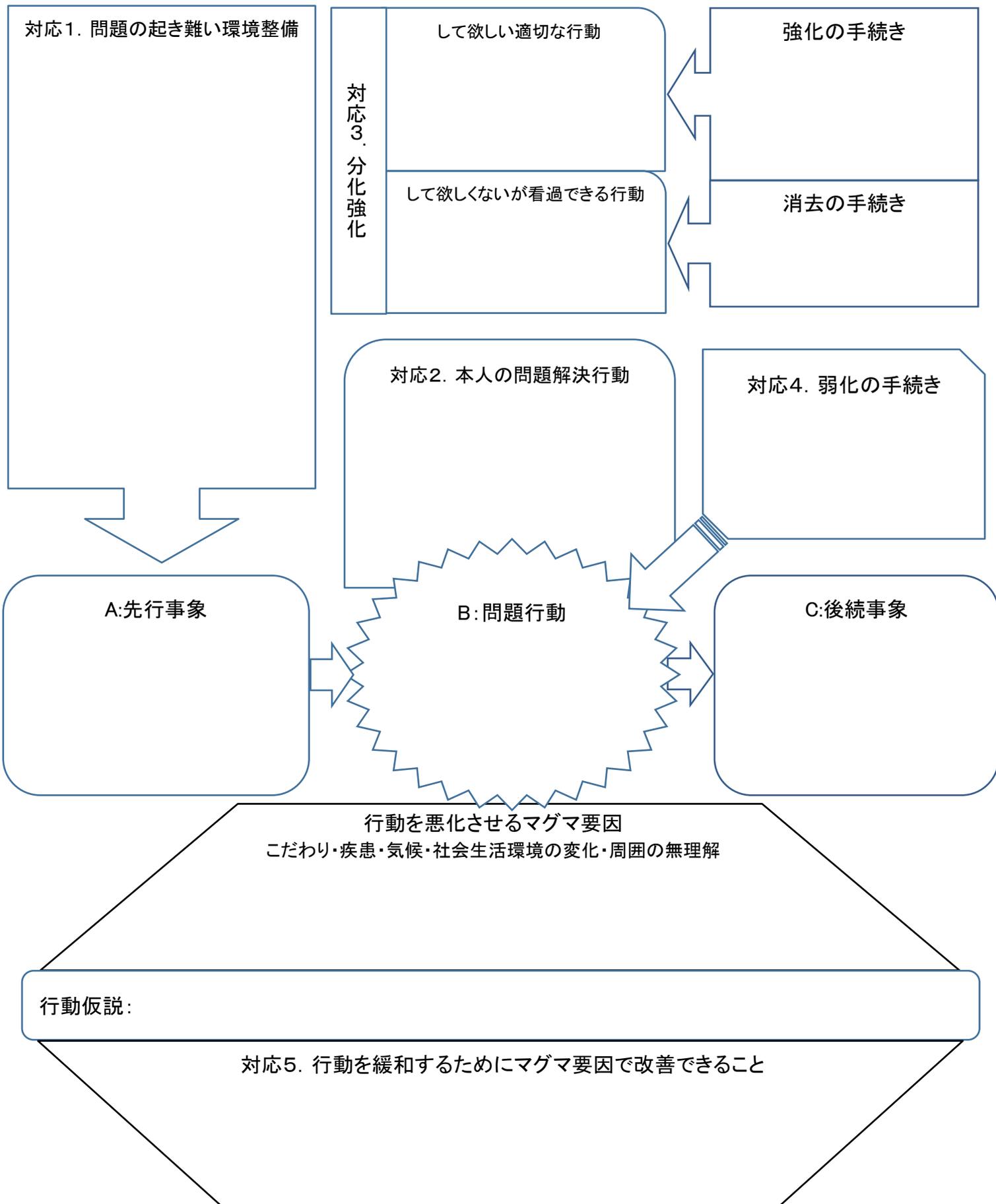
対応5. 行動を緩和するためにマグマ要因で改善できること

- ・運動会など行事の練習時間もなるべく短くする
- ・個別の時間を設けたり、カムダウンエリアを設定する
- ・絵カードやサインなど代替コミュニケーションを教える

8



行動問題の原因のまとめと対応法を考えるシート





実際に取り組む対応法

対応	
準備	
期間	
データ	
効果	減った・増えた・変わらない
考察	

対応	
準備	
期間	
データ	
効果	減った・増えた・変わらない
考察	

対応	
準備	
期間	
データ	
効果	減った・増えた・変わらない
考察	

※実施については、手順を踏んで行ってください。